十月 秋の女流能

十月二十四日（日）
午後十二時始

12:00 経政

シテ 葛野りさ
ワキ 梅村 昌功
大鼓 柿原 孝則
小鼓 岡本 はる奈
笛 熊本 俊太郎
後見 宝生 和英　東川 尚史
地謡 石黒 空　金井 賢　今井 基郎

12:40 柿山伏

山本泰太郎
休憩十分
山本 則秀

13:10 楊貴妃

シテ 影山 道子
ワキ 舘田 善博
間 山本凜太郎
大鼓 柿原 光博
小鼓 住駒 充彦
笛 栗林 祐輔
後見 辰巳満次郎　亀井 雄二
地謡 木谷 哲也　金森 良充　佐野 宜弘　高橋 由於亘　澤田 宏司　佐野 秀祥

14:50 鳥追

子方 出雲路 啓
シテ 後藤 裕子
ワキ 工藤 和哉
大日方 寛
間 山本 則秀
大鼓 佃 良太郎
小鼓 大山 容子
笛 小野寺竜一
後見 野月 聡　藪 克徳　朝倉 大輔
地謡 武田 伊左　土屋 周子　内田 朝陽　柏山 聡子　内田 芳子　久貫 弘能　広島 栄里子

休憩十分

16:00 太刀奪

山本 則孝
山本凜太郎
若松 隆

休憩十分

16:30 黒塚

シテ 関 直美
ワキ 御厨 誠吾
ワキツレ 舘田 善博
間 山本 則重
大鼓 大倉 慶乃助
小鼓 大村 華由
太鼓 姥浦 理紗
笛 杉 信太朗
後見 東川 光夫　高橋 憲正　金野 泰大
地謡 武田 伊左　土屋 周子　内田 朝陽　柏山 聡子　内田 芳子　久貫 弘能　広島 栄里子

終演予定 十七時三十五分頃

演目の解説

能「経政」（つねまさ）

御室仁和寺の僧都慶は、守覚法親王に命じられ、一の谷で戦死した平経政の為に、愛用の青山という琵琶を仏前に据え、管弦の弔いを行います。夜半にのみ現れ、燈籠の中に生前の姿なの霊が現れ、琵琶守覚法親王の特別経政の琵琶を借りに来た山のべ、琵琶を愛玩してあすることを許されたお礼を述べ、寺の内を懐かしみ、修羅の苦患が襲い来たり、修羅道の戦いに落ちて夜遊琵琶の名残を惜しむ管弦和讃を唱え、燈を吹き消して去った自らを恥じて、最後に

能「楊貴妃」（ようきひ）

玄宗皇帝は最愛の楊貴妃を失い、悲嘆のあまりその魂魄のあり処を訪ねて来るよう方士に命じます。あちらこちらを探した方士は遂に蓬莱宮に巡り会い、楊貴妃に玉冠を一度は受け取りたまえと会釈した楊貴妃は七夕の夜に契りを交わすと、方士に帝の深き伝言、確かに楊貴妃の物を帝に奏上する形見の玉冠を見せます。二人しか知らない言葉を望みます。再び冠を着けるとの言葉を教えます。

能「鳥追」（とりおい）

九州日暮の里の日暮殿は、訴訟の年余り在京し、残された妻子を家人の尉が養っています。左近為田の鳥を追わせるため、主人の尉は自分の妻子に、もし鳥を追い、殿の出すと脅し、無理や承諾せば家を追い鳥の地方の習いとして鳴子や鞨鼓を飾った船に乗り、二人に鳥を追わせていると日暮が、子しの訴えに怒り左近の尉を斬ろうとしますが、妻の余り命を助けます。

能「黒塚」（くろづか）

那智の東光坊の祐慶と連れは、陸奥の原で行き暮れてしまい、僅かな火の光を借りに一人の老女の住む家を訪ねる。物を見、女に尋ねなつた祐慶は、宿を頼りにこの女は「わは見慣れぬ輪」と答えて糸を紡ぎなが自らくせ生涯を嘆きます。なんと不気味ならかを寒に薪を採りに山に行く女の留守に閨を覗いてくなが、閨を覗き、祐慶達も恐ろし能力が閨を覗いてしまい、禁を破つた鬼なつて逃げ出すと、裏切られて来ます。哀しみと、女が追いかけて来ます。女の名曲。

チケット料金
（税込）
一般　5,500円
学生　2,750円
（当日学生証提示）

ご購入は
オンラインチケット
または
宝生会事務局まで